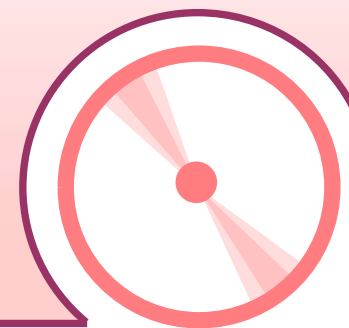


家での看取りを経験して

～訪問看護師が教えていただいたこと～

虹の訪問看護ステーション

須藤 美帆



はじめに

当ステーションでは

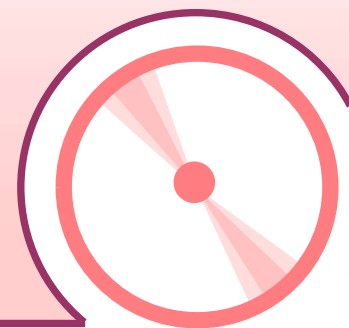
2020年4月から2022年10月の間に

在宅ターミナル(終末期)ケア 27名

うち悪性腫瘍 22名

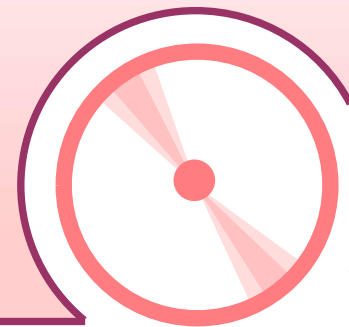
・肺炎や老衰など 5名

27名のうち在宅での看取り 7名



家族が在宅で看護・介護しようと思った動機

- ・これ以上の治療がなく、病院から退院を勧められた
- ・本人が家に帰ることを希望
 - ＊一時的な退院
 - ＊残された時間を家族と過ごしたい
- ・「何があっても入院しない！」と最初から決めている





在宅でできること

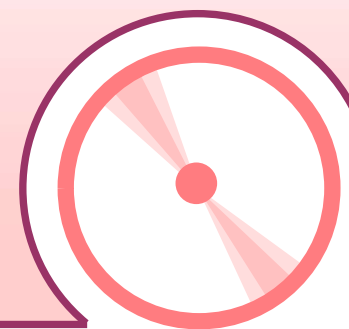
状態観察・点滴の管理・医療機器の管理

胃ろうなどの栄養管理・カテーテル管理

褥瘡などの傷の処置・保清(体拭きや入浴)

リハビリ・精神面のケア・介護相談・緊急時の

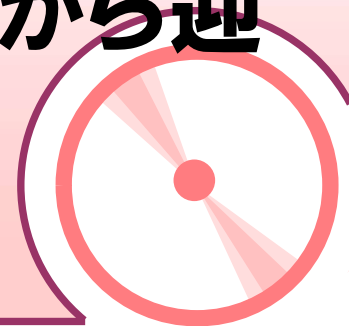
対応・エンゼルケアなど



在宅での看取り

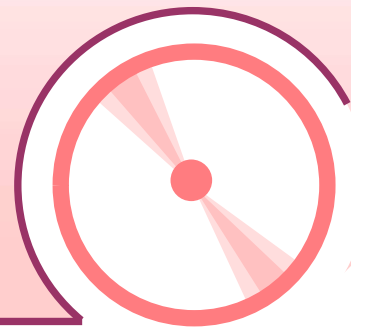
メリット

- ・住み慣れた家で家族と一緒に過ごすことができる
- ・自分のリズムで生活することができる
- ・最期に向けて心の準備ができる
(特にご家族)
- ・最期の時を家族に見守られながら迎えることができる

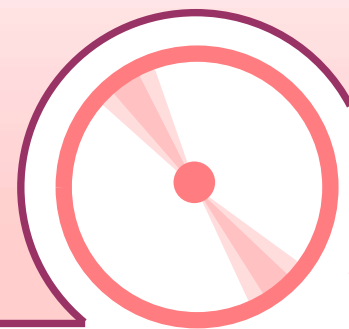


デメリット

- 状態の変化に戸惑い、慌ててしまう
- 家族の心の変化
- 家族間で意見が相違することがある



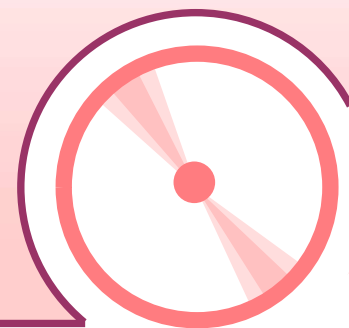
ご家族「家で看取るには大変な状態だったが、帰れば訪問診療と訪問看護で何とかしてくれるだろうと思っていた。本人の望む最期を迎えることができ良かった。」





在宅での看取りに必要なこと

- 信頼できる医師と出会えること
- 在宅医療を支える医師以外のスタッフ
- 家族を支えてくれる人がいること
- 家でも看取りができるということを知る機会



まとめ

**住み慣れた場所で、家族に見守られての最期は
とても自然で穏やか。**

**ご家族、そしてご自分の最後の場所として、在
宅が選択肢の一つでもあること。**

